社説

海軍思想を養ふ可し

海軍を軍備の主位に置き日本をして真實海軍國たらしめんとするには國民に海軍の思想を普及せしめて全體の好尚氣風を此一方に向はしむるみと肝要なり英國なぞの有様を見るに軍人の榮譽面目は恰も海軍に集まるものゝ如くにして青年の輩にして軍人たらんとするものは何れも海軍士官たるを願はざるはなし全國の氣風にして世界第一の海軍國を以て自から任するも自から偶然ならざる其反對に我國の現狀を如何と云ふに世間普通の考に軍人と云へば專ら陸軍に注目して他を顧みず例へば兒童輩の遊戯、戰爭の眞似事にも自から陸軍大將なぞ稱するの常にして又その帽子なぞも陸軍の制に擬するもの多きが如き畢竟海軍思想の普及せざるが爲めに外ならざれば國民の好尚氣風を奬勵誘導するみと最も肝要なりと知る可し其工風一にして足らざれども試に我輩の所見を述ぶれば

海軍の擴張は帝室の奬勵を仰ぐみと第一なり、我天皇陛下には夙に海陸軍の大元帥として軍事に御心を用ひさせらるゝは一般臣民の感佩し奉る所にして今更ら申す迄もなけれども大元帥の御資格にて海軍に臨ませらるゝ折は勿論その他の御場合にも海軍の御服裝を用ひさせらるゝは歐洲諸國の帝室にも其例あるみとにして軍人一般希望し奉る所なり又皇太子殿下に於かせられても陸軍幼校に任せらるゝと同時に海軍幼校を御兼任ばさせらるゝみとゝ爲し曩に東宮武官の如きは海陸の兩幼校より任命ある可く又陸軍の一兵式と同様、折り〳〵海軍の儀式を擧行せられんみと是れ又希望に堪へざる所なり

今の官私立の專門學校は其數甚だ多きにも拘はらず實際に海軍の教育を目的とするものは海軍部内の學校の外、僅に商船學校あるに過ぎず遺憾なりと云ふ可し海軍思想を養成するには人民の教育に意を用ふるみと第一なれば我輩の前に述べたる如く海軍兵學校の如きは東京もしくは其附近便宜の地に移して一般の便利に供するは勿論、其他海軍の教育に關する專門の學校には特典を與へて之を奬勵し又各地の師範學校中學校を始め小學校に至るまでも有の兵式教操と同様、海軍に關する一科を設けて幾分か海軍部の智識を得せしめ務に中學の卒業生の如きは一二學科の外は無試驗にて兵學校に入るの資格を開く可し圖畫の出版も教育に等しく思想の普及に肝要のものなれば大に之を奬勵して其發行を盛にするの工夫を施す可し例へば近來出版したる海軍圖畫海戰畫帖等の類は費用を補助して廉價に販賣し一般の購讀に便ならしめ又海外にて發見したる有益の著書雜誌の如きは之を翻譯して出版し又日新聞紙に掲載せしむる中にも日清戰爭の海戰史等は最も有益のものなれば速に編纂刊行し或は學の及ばざる處は之を外國に寄して一般の注意を喚ぶが爲めには パノラマ 等せも亦なる可し又海軍幼校の一部を開放する可く學者の公衆に出席して講演を試みしむるの工夫を施ひ可 [illegible] にして [illegible] するの工夫を施ひ可 [illegible] 本、神奈川 [illegible] 富貴等を陳列して公衆の觀覽に供するの趣向あり實物教育に由て海軍思想を養成する適切の方法にみをわれば我國にても時々みれを催ほし軍艦商船の模型を始め大砲、水雷、機關、艤裝品等より海軍に關係ある寫眞、繪畫、遺物等を陳列す可し例へば日本の海軍に於て最始の軍艦なる咸臨丸の模型、我國古來艦船の沿革圖、日清海戰の繪畫、寫眞遺物の如き又最近最新の軍艦兵器の雛形の如き公衆をして智識を得せしむると同時に興味を感せしめて廣く海軍思想を養成するに最も効能ある可し

其他尚ほ種々の工風もあらんなれども英國の如く一般の社會をして海軍々人を奬勵しむるまでの氣風を養はんとするには主として其車人に名譽を與へざる可らず即ち俸給を豐にし待遇を渥くするは素より必要なれども日本の如き海軍を重ずる國柄にてありながら故に陸海軍なぞ唱へて海軍の地位を陸軍の次に列するが如きは事、些細なる。に似たれども一般の感情に於ては自から其間に輕重を分つの意味もなきに非ざれば既に海軍を主とする上は其順序も陸軍の上に置て特に之を重んずるの意を示すが如き亦是れ海軍思想を喚起するの一法たる可しと信ずるものなり

○皇南附近の蕃情　臺灣總督府より其筋への報告

臺灣總督府より其筋への報告に據れば皇南附近の蕃社に於て盛に謠言を放ち蕃民を煽動して事を企てんとする者ある由風說頻なるより臺東撫墾署にては昨年十月廿一日署員を知本及び大麻里地方に特派して其情況を視察し併せて諭告する所ありしが當時に得たる蕃情の一班は左の如くなりしと

彼等は總て銀貨を愛し殊に日本銀貨を愛す是れ銀貨其物の効用を知りて然るにあらず唯其外形の美麗なるを愛するに在るなり彼等は十錢、二十錢等の小銀貨を集めて頭飾を造り或は煙管の裝飾に用ふ又其大銀貨即ち五十錢及び一圓等の貨幣一數枚を集め各々其中央に小穴を穿ち毛髮にて之を連ね布片に縫着して胸背の飾と爲す其狀恰も瓔珞の如し銀貨を以て物品を購ふの習慣なきにあらざるも其嗜慾太だ薄きため極めて些少なり

銀貨は彼等に於て其だ嗜好せるが故に定て其價も貴からんとは何人も推想する所なれども實際は然らず實品其他勞働賃銀等の高貴なるは異に驚くのみなり先づ其一例を擧ぐれば大麻里より新街に至る（此間六里半）牛車賃一輛四圓、人夫賃一人一圓を投ぜざれば決して其求に應ずる者なし仍て旅費は幾度か懇願の末遂に其牛車賃を二圓五十錢に減額するの約束をなしたりと云ふ蕃に十錢以下の小銀貨未だ該地方に到達せず土人の間に於て最も多く通用する一厘錢（清國貨幣）は彼等に向ひて何の効力もなく假令二三錢の物品を購ふに當ては十錢銀貨を投ぜざるべからざるの場合あり貨幣の失價亦甚しと謂ふべし彼等に於て斯くも濫に錢を貪るに至りたるは從來彼等が土人と交易を行ふに當り非常の高價を拂ふを以て常とせしため自然の感化力に因り貨幣の價値を高きと知らざるに因るべし蕃地に內地人の進和彼等に對し銀貨を以てせしもの亦之が一因たるを見れば [illegible] 始めて車賃に上陸するや兵隊從僕の除なれば過格の賃銀を拂ひて彼等を使役し若くは物品を購へり且つ大麻里の如きは久しく工兵隊及び電信隊の駐屯地たり之に附隨する數百の人夫職工等一時に該地に集合したるに由り百貨忽ち需供の平均を失ひ非常の高價を唱へたれども內地人の購買力は毫も衰ふるみとなく蕃民の云ふが儘に賃銀若くは代金を支拂ひたるを以て彼等の腦髓は當時の考を脫却せず知らず識らずの間遂に今尚ほ不當の賃銀を貪るに至りたるなれども今後若し蕃人を使役するみと今日の如く急ならず內地商人の追々彼地に入り比較的廉價を以て物品を商ふに至らば其時に於て始めて現今の弊害を洗除するを得べし

彼等の性情　皇南附近の蕃民は往時清國知州衙門の下に近邇し又常に臺東州第一の市場たる新街に出入する者多く隨て稍々同化の度に進み到底皇南大溪以北に於ける蕃民の朴素愚直なるに比すべからず殊に浮浪の土人若くは支那人の雜居する者數多なるを以て幾分か其性質を變ぜし者なきにあらずとするも要するに溫和柔順殊に內地人に對しては無上の好意と十分の服從とを表するものゝ如し

蕃社中の土人　皇南附近の蕃地には土人若くは新に清國より來りたる者一社に付多きは十餘人、少きも四五人宛在住せり彼等は概ね今を距る十餘年前乃至二十年前清國より渡來し或は本島前山地方より衣食を追ひて流離轉徙せし者孰れも蕃女を娶り耕作若くは交易其他苦力に依りて一家を成せるなり中には往時清國地州衙門又は撫墾局の官吏たりし者もある由なれども概ね皆浮浪輕薄の徒のみなれば蕃人に對して一點の勢力なきのみならず却て蕃民の爲めに惡如せらるの傾きあり夫の所謂謠言を放ちて蕃民を煽動せんとする者果して之あらば必ず彼等の所爲なるべきも蕃民の之に應ずる者なかるべきなり

○豐太閤榮華物語

（第十四回）

放牛舍　桃林遠　社員　連記

斯くの如く利休は秀吉公の御親愛を得て居りましたが親愛も過ぐれば却て嫌はるゝやうに相成るは世の習ひと見えて茲に一つ利休の身に測らざる災難の降り懸るとは申すは誠に氣の毒の次第でありまする、扨は他にあらず利休に三人の小供がありまして長男を道庵と云ひ長女をれ三と申します、みのれ三と申すは白舌屋宗伴に嫁し三番目の男を少庵と申した、みれ利休が後妻の連子でありまする、長女のれ二と申す女子は天然稀れたる美人にして見る人聞く人誰一人として羨まぬものはない位の郷人、誰にも佳人絶りを全うし殊で此れ三は不幸にも夫宗伴に別れて無偶遠る間なく日夜一間に籠つて心も自然に素れ勝ちに居るものでござるから父利休は娘の不散じにもと或日れ三に向ひ些と花見にでも往かれては何うかと再度の勸め、れ三も父が折角の勸めと云ひ且つは花でも見たら氣も散じやせんと一人の侍を伴へて風谷の方から [illegible] 遊び [illegible] 人々で [illegible] 嘆み [illegible] つゝ [illegible] 者に [illegible] 無も [illegible] 恐なく家に歸らんとする折しもれ [illegible] 人召連れ給ひ御身には [illegible] 衣を召し [illegible] 平入、水下げ上」と [illegible]

深く烏帽子を [illegible] を手に携へなれたが折柄山 [illegible] 折悲 [illegible] 固より [illegible] する、只れ [illegible] 服に下着には [illegible] るその姿雨に [illegible] あらせられて [illegible] 子は何者の娘 [illegible] 樣れ」ハッと [illegible] 近寄あれに御 [illegible] それに控へ居 [illegible] と恐るゝ [illegible]